

新 新養老大橋（仮称）架橋建設促進期成同盟会設立総会 橋の建設に向けて「設立総会」開催

1月28日（木）、養老町と輪之内町を隔てる牧田川・揖斐川に新たな県道架橋の建設を求める「新養老大橋（仮称）架橋建設促進期成同盟会」の設立総会が養老町役場で開かれました。期成同盟会は、養老町と海津市、輪之内町の一市二町で構成され、1996年に養老町、輪之内町と旧平田町（現海津市）の三町で発足した同架橋建設促進協議会を格上げしたものです。

新しい橋は、県道養老平田線と国道258号線の交差点（船附地内）から東へ延伸し、牧田川と揖斐川を越えて輪之内町を横断し、海津市の南濃大橋まで結ぶ新道に建設する構想です。橋の新設で、福東大橋の慢性的渋滞を解消し、さらに、計画が進む東海環状自動車道西回り区間にできる養老インターチェンジ（仮称）へのアクセス道となることで地域経済の活性化が見込めます。

設立総会には、関係市町の首長や議長ら約20人が出席。会長に養老町の稲葉貞二町長、副会長に海津市の松永清彦市長、輪之内町の木野隆之町長を選出し、事業促進に向けての関係機関への協議・要望事項などを決めました。



▲関係市町の首長や議会議長が慎重に協議しました

自 防災まちづくり講演会 自分の身の安全は自分で守ろう！

2月6日（土）に町民会館で防災まちづくり講演会が開かれました。災害時にリーダーとして活動してもらう各地区の防災隊長や消防団員など約300人が集まり、前小千谷市長の関広一さんが新潟県中越地震で体験し学んだことを話されました。

平成16年10月23日に発生した中越地震で、小千谷市は大きな被害を受けました。避難所に避難した人や災害ボランティア、届いた救援物資など、すべてが市の想定を超え、その対応に苦慮したそうです。また共助の例として、山崩れで孤立した集落が、食糧や自家発電機などを持ち寄り助け合って生活した話もされました。「非常持ち出し品の中には、老眼鏡、補聴器、入れ歯も忘れずに。他の人の入れ歯は借りられませんよ。」と、実際に災害を体験したから気づいたという、貴重な話が聞けました。

最後に、災害の時は周りみんなが被害者であり、助け合う必要があるという認識を持つこと。また、まずは自分の身を守り、次に家族、近所と輪を広げていくことが「自助」「共助」であり、それが重要であると締めくくられました。



▲中越地震直後の写真を紹介し講演する関さん